

先進地視察調査報告書

平成19年11月21日に岡崎市に先進地視察をいたしましたので、その結果について、下記のとおり報告いたします。

生活環境分科会

分科会長 水沼富美男

委員 今井 昭男

同 菊地久美子

同 戸室 康子

1 視察先

愛知県岡崎市

2 視察先の概要

- 岡崎市は、愛知県のほぼ中央、三河山地と岡崎平野の接点に位置する。矢作川が南北に、乙川が東西に流れており、岡崎城はその合流地点にある。古くから城下町、宿場町、門前町として栄えた。

平成15年4月から中核市となり、平成18年1月には隣接の額田町と合併。「人、水、緑が輝く 活気に満ちた美しい都市」を将来像に掲げている。

- 人口、面積等は、下表のとおり。

項目	愛知県	岡崎市	宇都宮市
面積	5160.63k m ²	387.24k m ²	416.84k m ²
人口	7,351,713 人	370,542 人	502,396 人
世帯数	2,867,885 世帯	137,406 世帯	194,051 世帯
年少人口比率 (0 から 14 歳)	14.6%	15.5%	14.4%
老年人口比率 (65 歳以上)	18.4%	16.3%	16.8%

※H17 国勢調査確定値に、人口動向調査による1か月間の異動数を加減した数値

(宇都宮市は旧1市2町を合算)

- 自動車関連産業のほか、繊維・石材加工などの地場産業が盛んであり、第2次産業の就業率が40%超と高くなっている。また、大豆を用いた八丁味噌の産地としても有名である。

- 市内には、江戸幕府の祖・徳川家康の生誕の地として有名な岡崎城があり、また、6つの大学・短大及び分校や大学共同利用機関法人自然科学研究機構の研究所などが存在する文教都市でもある。



3 調査項目

- ・地球温暖化対策について
- ・水・緑等の自然環境保護対策について

4 対応者

岡崎市 収入役		相川 恵彦 様	
環境部 環境部次長 (環境総務課長兼務)		松田 藤則 様	
環境総務課 総務班 班長		山田 康生 様	
環境管理班 主査		古瀬川英樹 様	ほか

5 視察内容

(1) 説明内容

ア 地球温暖化対策

○「地球温暖化防止隊」

- ・平成18年に、市民・事業者・行政の三者による地球温暖化対策のための協働組織として発足。
- ・市民（正会員）、事業者（賛助会員）、行政それぞれの会費で運営され、主に温暖化対策の市民講座や広報活動などを行っている。
- ・また、温暖化防止隊のメンバーは、県において設置している「地球温暖化防止活動推進員」にも登録しており、市・県両方の活動に参加している。
- ・行政は事務局に徹しており、活動はほとんど市民（正会員）が行っているが、市民向けの講座の参加率が上がるなどの効果が見られる。
- ・正会員は60～70代前後が多く、事業の継続のためにも他の世代にいかに参加してもらうかが課題となっている。

○エコシール制度

- ・昭和57年、中学生徒市議会の発案のもとに、過剰包装によるごみの発生を抑制するための「ノー包装運動」を開始。「ノー包装シール」を集めると市の報償物品に交換できる制度であった。
- ・平成13年度に「ノー包装運動」を見直し、現行の「エコシール制度」をスタート
- ・市民が「エコグリーン運動（レジ袋を断るなど）」や「エコボランティア活動（清掃活動など）」を行うと「エコシール」が手に入り、それを一定数集めると協力加盟店の割引券として使えるほか、市の報償物品との交換ができる。
- ・事業費の負担割合は、エコシール1枚につき、協力加盟店が2円、市が3円

○その他の取組み

- ・岡崎市の環境保全PRキャラクターとして「未来環境創造戦士 エコマンダー」

を作成。市職員が特撮ショーのヒーローのような衣装で環境にやさしい行動に関するわかりやすい寸劇を披露している。市のイベント等に積極的に参加し、子どもたちやその親世代に環境にやさしい行動を広める工夫をしている。

イ 水・緑等の自然環境保護対策について

○ おかざき水とみどりの森の駅事業

- ・ 新市における豊かな水資源と自然環境を将来にわたって保全するため、既存の自然公園や自然環境、里山などの保護や活用を市民協働で行っていく事業
- ・ 旧岡崎市の「おかざき自然体験の森」と旧額田町の里山や溪谷及び整備途中であった圃場などを新市において「森の駅」として整備を進めると同時に、市民協働で自然環境保全が行えるよう「自然環境保全への市民の理解と協力」を得ることや「自然環境を守り育てる地域の生活と文化の継承」していくことを目指している。
- ・ 森の駅の保全活動やさまざまなイベントはボランティア団体やサポーター（個人のボランティア）が中心となって行われている。

（２）質疑内容

- ・ 岡崎市のごみ処理は既に有料化されているのか。

⇒ 市指定ゴミ袋を販売しているが、販売価格にごみ処理手数料は含まれていないため実質的には無料である。また、小売店で使われているレジ袋でも、市の指定を受けているものは燃えるごみ用に使ってよいことになっている。

- ・ 地球温暖化防止隊は、老人会などの各種団体へ直接働きかけを行っているのか。また、何年度に設立されたのか。

⇒ 直接各種団体に個別に働きかけるということはないが、各種（出前）講座のPRに「温暖化防止隊」も載せているので、講演会の依頼などが来ることもある。

温暖化防止隊制度は17年度からできたが、正式な発足式を行ったのは18年度である。

- ・ 防止隊と推進員との違いは？

⇒ 推進員は県が任命、防止隊は市が任命しているというのが大きな違いである。推進員は県の活動があればそちらにも参加している。市内の温暖化対策に関する活動であれば防止隊が積極的に参加してくれている。

（３）委員所見

◆環境施策全般について

- ・ 岡崎市は環境に係る市の機構がきめ細かく、施策展開に機動力がある。宇都宮市も見習うべき部分があるように思える。
- ・ 岡崎市の環境問題に対する取り組み方はアクティブな印象を受けた。

- ・ 岡崎市は市民への環境問題の啓発が「エコマンデー」などを活用するなど、理念的でなく具体的であるように感じられる。宇都宮市でも同様の取り組みをしているとのことだが、活用方法に工夫が必要である。
- ・ 未来に負を残さないよう、身近な部分から啓発活動を行っていくべきである。「エコマンデー」のように、子どもとその親がエコ意識について楽しく学べるイベントの場がたくさんあるとよい。
- ・ キャラクターを用いた意識啓発については、宇都宮市にも既に「ミヤリー」などがあるため、もっと活用したほうがよい。
- ・ 岡崎市の取り組みには市民個々のボランティア精神・活動に期待する部分も大きい。宇都宮市においては、岡崎市ほどボランティア活動が盛んでないように感じられるため、個人や地域の力を高める施策・事業に力を入れる必要がある。
- ・ さまざまな活動において、取りかかりは行政が手助けし、その後は市民に手渡せるような仕組みであるとよい。その際、市民の活動の範囲が狭くなったり、短期間で終わらないよう、活動に参加する年齢層が幅広いものとなるよう考慮すべきである。
- ・ 宇都宮市においても地域の力を活用する「リサイクル推進員制度」があると聞いたが、実際にはまだ浸透してないように思う。

◆地球温暖化対策について

- ・ 宇都宮市で温暖化防止対策を講じる際には、理念・お題目先行とならないよう、実効性のあるものとすべきである。
- ・ エコシール制度については、宇都宮市に同様の制度を取り入れてもよい。
- ・ エコシール制度など、エコロジーに取り組む岡崎市の熱心さに感心した。
- ・ 行政が新しい施策・事業に取り組む際には、その背景や課題について、十分な事前調査・分析、他の手法との比較検討を行った上で行うべきである。
- ・ 子どもたちに理解してもらおうという取り組みは非常によい。宇都宮市でも取り入れるべきと考えるが、人が入る着ぐるみのようなものを無理につくる必要はないと思う。

◆水・緑等の自然環境保護対策について

- ・ おかざき自然体験の森は、市民参加型の取り組みをしており、環境教育の場としてもとてもよい。
- ・ 水とみどりの森の駅事業の活動において、最低限の人件費以外はボランティアでまかなわれているとのことであり、すばらしい取り組みなので長く続けて欲しい。

【参考:先進地視察の様子】

■岡崎市職員による説明



■水とみどりの森の駅 現地見学

